

【都算研の活動】

〈総会〉

5月、新年度組織の結成とともに、模範授業や講演会などが催されます。

〈研究発表会〉

10月、都算研の各委員会や区市町村算数部による研究授業、各委員会の研究報告等が行われます。

〈研究委員会〉

日本の算数教育の動向を見据えながら、都算研の研究主題を受けて、本委員会の研究主題「数学的に考える資質・能力の『評価』の在り方に関する一考察」を設定し、先進的に研究を進めています。そして、毎年、その成果を都算研研究発表会での研究授業や研究発表の場で報告し、今後の算数授業改善の具体的な方向性を示し、都内公立小学校の算数教育の向上に寄与しています。また、毎年、関東甲信静数学教育研究大会で研究発表を行い、東京都以外の地域にも研究の成果を広めるよう努めています。

〈授業研究委員会〉

都算研研究部の4つの委員会のうち、「授業実践」を中心に研究している委員会です。本委員会の研究主題「教材の本質をとらえ、数学的な思考力、判断力、表現力を育てる授業」に迫るために、全都を東・中央・西の3つの地区に分け、算数の授業実践に志を高くもつ教員を募り、各地域の優れた実践を交流させながら研究を深めています。3つの地区の研究活動を都算研常任理事である担当校長が統括し、各地区から年2本ずつ計6本の検証授業を公開し、本委員会の研究成果の普及に努めています。

〈実態調査委員会〉

昭和 39 年から東京都の公立小学校児童を対象に、算数の学力実態調査を実施してきました。第 1 回の調査以降平成 30 年度までの 55 年にわたり、毎年行われていること、調査人数が各学年とも約 5 万人と大規模であることなど、他に類を見ない実績を重ねてきています。調査内容は、「数と計算・数量関係」領域と「量と測定・図形」領域を隔年で実施しています。算数教育全体の課題をとらえていくとともに、誤答例分析により個々の児童の学習状況に基づいた指導の工夫や指導の改善を図っていただくことなどを目的にしています。研究成果は、毎年、都算研の研究発表会や関東甲信静数学教育研究会等で発表しています。今後は、学習指導要改訂に伴い問題の一部を改訂していきます。

〈資料委員会〉

実態調査委員会と連携して研究を進めています。実態調査委員会で行なわれた集計結果の考察を受けて、正答率の低かった問題を取り上げ、その要因を探り、授業での検証と協議を重ねて作成した改善指導案を指導資料として提供しています。また、まとめた資料及び指導の実践を実践事例として、毎年、日本数学教育学会の全国大会や都算研の研究発表会、関東甲信静数学教育研究大会でも発表しています。

〈研究員育成委員会〉

東京都算数教育研究会研究員（以下、「研究員」）を毎年募集しています。研究員の指導を通して、都内各地区の小学校算数教育研究活動の中核となる教員を養成し、東京都の小学校教育の向上に期することを趣旨として活動しています。研究員の任務は、その所属する学校における教育活動を通して、算数科の内容、指導方法等を研究し、様々な算数教育の課題の解明と指導力の向上を図り、当該地区における指導者としての資質を身に付けることです。令和元年度（第 14 期）は 12 名の研究員が在籍し、現在、令和 2 年 2 月 25 日（火）武蔵村山市立第八小学校で開催する都算研研究員研究発表会に向けて、研究活動・発表準備に邁進中です。

〈広報等の活動〉

研究紀要や会報の発行、ホームページによる情報発信を行っています。